

台風接近に伴う農作物等の技術対策

【果 樹】

1 事前対策

- (1) 防風林、防風ネット、果樹棚等の点検と補強を行う。
- (2) 排水溝の整備、点検、補修を行う。
- (3) 収穫期に達している果実は、速やかに収穫する。
- (4) 棚栽培の果樹では、園内を点検し、誘引がゆるんだ部分があれば棚面に再誘引する。また、果実が棚線に接しないように注意して結果枝の誘引を行う。なお、棚揺れによる落果を軽減するため、支柱の追加や支柱と棚線の固定、らせん杭等を使った棚の引き下げ等を行い、棚揺れを軽減する。併せて破風ネット（幅2 m程度のネットを棚下に7～8 m間隔で垂らす）を設置する。イチジクの一文字整枝は、結果枝の誘引を確実に行う。
- (5) 立木栽培は、枝折れや倒伏防止のため、支柱を立てて固定する。
- (6) カンキツのシートマルチ栽培園は、シートの飛散や破損防止のため、押さえの補強、または樹冠下への収納、結束を行う。
- (7) 幼木は、強風に弱く、主枝、亜主枝等の損傷を受けやすいため、支柱等により固定する。
- (8) 海岸沿いの樹園地では、潮害に備えて、散水用の動噴やスプリンクラー等の点検整備を行うとともに、水源を確保し、水が不足する恐れがある場合は可能な限りタンク等に水をためておく。
- (9) 中晩生カンキツおよび温州ミカン（幼木）ではかいよう病、モモではせん孔細菌病、スモモでは黒斑病、ウメではかいよう病等が、台風通過後に大発生する危険があるため、事前に予防散布を実施する。

2 事後対策

- (1) 海岸沿いの樹園地では、降雨が少ない場合、潮害により落葉等の被害が発生するため、塩分付着後6時間以内に、十分量の散水で洗い流す。
- (2) 強風により果実や枝葉に微細な傷が発生し、病原菌の侵入が予想されるため、台風通過後には速やかに各地域の防除暦に従って薬剤散布を行う。降雨量が多かった場合、特にカンキツでは黒点病、褐色腐敗病、ブドウではべと病、カキでは炭疽病、イチジクでは疫病、キウイフルーツでは果実軟腐病、核果類では細菌病等の発生に注意し、防除対策を講じる。
- (3) 強風により落葉した場合、日焼け果や生理障害果（軟果や空洞果）の助長、また品目によって不時発芽、不時開花による貯蔵養分不足を招く恐れがあるため、被害程度を確認し、果実への傘かけや着果調整、貯蔵養分確保に向けた葉面散布等の対策を講じる。
- (4) 品目によっては園内に長期間湛水すると根傷みによる樹勢低下を招きやす

いため、過剰な土壌表面水を速やかに園外に排出する。

- (5) 落果、腐敗果、裂果した果実は、園外に持ち出す。特に、ブドウで裂果が発生した場合は、袋内での腐敗の蔓延を防ぐため、裂果した粒を取り除く。
- (6) 樹体が傾いたり根が露出した場合は、株を起こし、株元に土を寄せて固める。また、枝折れ等の樹体の損傷を受けた場合は、健全部まで切り戻し、切り口を塗布剤で保護する。